

平成26年 9月

田中健一郎 学位論文審査要旨

主査 兼子 幸一
副主査 前垣 義弘
同 中島 健二

主論文

Impulsive compulsive behaviors in Japanese Parkinson's disease patients and utility of the Japanese version of the Questionnaire for Impulsive-Compulsive Disorders in Parkinson's disease

(日本人パーキンソン病患者における衝動制御障害の臨床的検討と日本語版調査票の作成)

(著者：田中健一郎、和田（礒江）健二、中下聡子、山本幹枝、中島健二)

平成25年 Journal of the Neurological Sciences 331巻 76頁～80頁

参考論文

1. 長期間のせん妄状態により多様な精神症状を呈したと考えられた若年発症Parkinson病の1例

(著者：田中健一郎、和田健二、矢野英隆、渡辺保裕、中島健二)

平成24年 神経治療学 29巻 441頁～444頁

2. Clinical evaluation of fatigue in Japanese patients with Parkinson's disease

(日本人パーキンソン病患者における疲労の臨床評価)

(著者：田中健一郎、和田（礒江）健二、山本幹枝、田頭秀悟、田尻佑喜、中下聡子、中島健二)

平成26年 Brain and Behavior 掲載予定

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は鳥取大学医学部附属病院神経内科通院中の日本人パーキンソン病患者における衝動制御障害(ICBs)について、その発症頻度や関連因子について調査し、さらにICBsの日本語版の調査票(Questionnaire for Impulsive-Compulsive Disorders in Parkinson's disease)を作成してその有用性も検討した。その結果、日本人パーキンソン病患者におけるICBsの有病率は21.5%で、ICBsの関連因子として年齢、発症年齢、罹病期間や薬剤との関連が挙げられ、調査票の有用性も明らかにした。本論文の内容は、神経内科学の分野で、明らかに学術水準を高めたものと認める。